



## 背景・目的

- 2030年度までの温室効果ガス26%削減の達成に向け、あらゆる分野において更なるCO2排出削減が可能な技術を開発し、早期に社会実装することが必要不可欠。一方、民間に委ねるだけでは、必要なCO2排出削減技術の開発が十分に進まない状況。
- このため、将来の地球温暖化対策強化につながり、各分野におけるCO2削減効果が相対的に大きい技術の開発・実証を政策的に進め、早期の実用化を図ることでCO2排出量の大幅な削減を目指す。

## 事業概要

- 将来的な対策強化が政策的に必要となる分野のうち、現行の対策が十分でない、または更なる対策の深掘りが可能な技術やシステムの内容及び性能等の要件を示した上で、早期の社会実装を目指した技術開発・実証を行う。
- 技術開発の必要性、実施体制・計画、開発目標、CO2削減効果等を外部専門家により審査し、事業実施主体を選定。進捗管理を強化し技術目標到達の確度を高めるため、開発の各段階で技術成熟レベルを判定し、改善点等があれば指導助言、計画の変更等を行うことにより、効果的・効率的な執行を図る。

## 事業スキーム

- 委託・補助対象：民間団体、公的研究機関、大学等
- 実施期間：平成25年度～平成34年度
- 補助率：最大 1 / 2

## 期待される効果

- 将来的な地球温暖化対策の強化につながるCO2削減効果の優れた技術を早期に社会実装し、社会全体のCO2排出量を大幅に削減。
- 当該技術が社会に実装されることにより、平成42年度に1,000万t-CO2の削減を目指す。

## 事業目的・概要等

## イメージ

### 地球温暖化対策強化につながる技術開発・実証の例



- 目的：交通部門における省CO2強化  
内容：大型車用EVシステムの性能計画及び開発
- ✓ バッテリーのエネルギー密度向上による航続距離の大幅な向上、大容量減速機開発による軽量化等
  - ✓ 横浜市でのEV路線バス実証試験



- 目的：業務用建築物部門の徹底的なCO2削減  
内容：動力を最小限とするデータセンターの開発
- ✓ 冷媒の自然対流を活用した冷却方法により、ICT機器以外の消費電力量をほぼゼロとする
  - ✓ 発熱量に応じて、液体と空気により最適冷却



- 目的：上水道分野における省CO2強化  
(浄水場等の未利用エネルギーの最大限活用)  
内容：管路用高効率小水力発電システムの開発
- ✓ 管路用水車の高効率化・低コスト化
  - ✓ 設置面積半減、発電コントローラのパッケージ化

